

令和4年度第1回伊勢市総合教育会議 結果概要

◆日時 令和4年12月1日(木) 18:00～19:10

◆会場 小俣総合支所 3階 大研修室

◆出席者

伊勢市長

岡 俊晴 様(教育長)

中村 孝史 様(教育長職務代理者)

永井 正高 様(教育委員)

駒田 聡子 様(教育委員)

中西 康裕 様(教育委員)

畑井 祐樹 様(教育委員)

◆出席職員

《情報戦略局》

情報戦略局長、情報戦略局次長、企画調整課長、同係長

《教育委員会事務局》

学校教育部長、参事、教育総務課長、学校統合推進室長、学校教育課長、スポーツ課長、
教育研究所長、学校統合推進室副参事、学校教育課副参事(指導担当)、
学校教育課副参事(人権学習担当)、学校教育課副参事(学事担当)、
学校教育課副参事(教職員担当)、教育研究所副参事、学校教育課主幹、
教育総務課総務係長

◆内容

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 教職員の働き方改革(部活動の地域移行)について

4 その他

5 閉会

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておりませんので、ご了承ください。

■ 協議事項

（1）教職員の働き方改革（部活動の地域移行）について

- ・部活動の地域移行及びその他の働き方改革について、意見交換を行った。
- ・本日頂いたご意見を踏まえるととともに、引き続きご意見・ご支援をいただきながら取組を進めることを確認した。

<主な意見等>

- ・部活動の地域移行にはどのような背景があるのか。心の不調による教職員の休職は、どのような要因があるのか。教職員としての意識・適性にも目配りをしてほしい。
→ 教職員の採用試験の希望者が減ってきており、これから教育を担う人が減っていく心配が背景にある。教職員の心の不調の要因は様々あると思うが、これまで地域で支えてもらっていた部分が減ってきたことにも一つの要因があるのではないか。
- ・「授業とクラブ活動の両方を学校がやってくれる」「〇〇中学校の代表として大会に出る」ことを当たり前として経験した世代である保護者の理解が重要である。
- ・今の若者は、ワークライフバランスが職業（企業）選択の大きな要因になっており、企業へ就職した方がワークライフバランスが実現しやすいと思われていることで、教員のなり手が少なくなっている。残業がなく、教える喜びを感じられる環境が必要である。
- ・子どもに対して新たな教育の取組をしようとして、教職員のやることがどんどん増えていく。いろいろなシステムを使うなどで効率化するとともに、止めるべきことを止めていく必要がある。部活動の地域移行も1つの手段であり、それに加えて他の手段も講じていく必要がある。
- ・みなし労働制では、仕事の管理をしっかりとしないといけない。個人任せにすると偏りが出てくる。時間外勤務の平均時間だけで見るのではなく、個人単位でみると多い人と少ない人がいるはずで、それを調べて対策を取らないといけない。
- ・これまでの「残業すればいい」という考えから、「なんとか定時内にできないか」「できない場合は仕事を分担できないか」など、先生の意識を変えていく必要がある。
- ・生徒数の少ない地域ではクラブチームがあることによって機会が増える。ただし、クラブチームに参加できる地域を限定しないと、どのチームでも選択できるようにすると、偏りが出たり、他チームからの引き抜きなどが起きないかという心配がある。
→ 現時点で制度が固まったわけではないが、子どもたちの選択肢が増えるように、基

本は子どもたちが選ぶという形で検討していきたい。

- クラブチームの設置にあたっては、安定して継続していけるという観点が大事である。
- 大人の視点ではなく、「その子がやりたいことができる環境を整える」という子どもの視点から考えてほしい。子どもが指導者と合わない場合もあり、選択肢が増えることはいいことなので、柔軟な考えで対応してほしい。
- 子どもと接すると学生は変わるので、指導者を育てるという点において大学と学校現場等が連携する機会も増やしてほしい。

- 「日本一を目指したい」「いろいろな種目を体験したい」等、生徒の希望がかなえる環境づくりを目指していきたい。